

初等家庭科教育法の授業課題

家政教育・竹下浩子

1. 授業の概要

本授業は、小学校教科科目の初等家庭科教育法であり、担当教員（藤田昌子准教授、竹下浩子）2名で登録学生数141名であった。15回の授業は、クラスを半数ずつに分けて行った。本報告では、竹下の授業を受講した68名の学生に対しての調査をもとに報告する。

本授業の目的は、現代の小学校家庭科教育の意義や課題、教育内容、支援方法等を理解し、小学校家庭科における授業実践に必要な基礎的な知識と教育実践力を身につけることであり、関連するディプロマ・ポリシーは「教育に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。（知識・理解）」と「教育活動に取り組むため、高い技能と豊かな表現力を身につけている。（技能・表現）」であった。

授業概要は、初等教育における家庭科の学習支援に関する実践力の基礎を養うために、児童および家庭科教育の実態、児童を取り巻く生活環境の諸課題等を踏まえ、家庭科教育の目標、内容、支援方法、教材研究、授業設計等について解説・検討を行った。

授業は、前半に家庭科教育の目的や意義・目標を確認した。次に家庭科の4領域の内容について授業設計、教材研究をグループ（1グループ5名）ごとに行った。最後にグループごとに20分間の模擬授業を行い、その評価を行った。

2. 授業評価

授業評価のため、アンケート調査を実施した。調査の概要は次のとおりである。

調査日 2015年1月29日（木）1限  
 調査場所 103号室  
 調査方法 質問紙調査  
 受講者 学教，特支2回生  
 回収数（率） 56名（82%）  
 調査内容

A 学生自身の授業への取り組みについて

（予習・復習の有無、授業への取り組み等）

B 授業について

（進度、わかりやすさ、指導案作成、模擬授業についての有益性等）

A 学生自身の授業への取り組みについて

（表1）

「シラバスを事前に読んで授業概要を把握していましたか。」「授業外学習を行いましたか。」という質問に対して、多くの学生が【いいえ】と回答した。しかし、「模擬授業へは十分な準備を持って取り組みましたか。」という質問に対しては、【はい】と回答した学生が47人と多かった。模擬授業の準備は、授業外学習としても位置づけられるため、個人での授業外学習は行っていないが、グループでの指導案作成や授業準備には、時間をかけて行った学生が多かったと思われる。また、授業には意欲的に取り組んだと答えた学生は多くいた。

出席状況について尋ねたところ、【正当な理由なく欠席・遅刻をした】と答えた学生が30名いた。昨年度と比較して、今年度の学生は全体的にみても、授業への出席率、遅刻率がかかり多くいた。

表1. 授業への取り組みについて

質問項目	今年度		昨年度	
	はい	いいえ	はい	いいえ
シラバスを事前に読んで授業概要を把握していましたか。	33人	22人	40人	32人
授業外学習を行いましたか。	26人	30人	-	-
授業には意欲的に取り組みましたか。	49人	6人	60人	12人
模擬授業へは十分な準備をもって取り組みましたか。	47人	8人	52人	20人

## B 授業について

(表 2)

「授業の進行速度は適切でしたか。」について、【いいえ】と回答した学生は 2 名と少なかった。一方、「授業はわかりやすかったですか。」について、【いいえ】と回答した学生は 11 名おり、比較的多かった。特に、「授業はわかりやすかったですか。」について、【いいえ】と回答した学生のほとんどが、「授業には意欲的に取り組みましたか。」の質問項目において【いいえ】と回答しており、授業が分かりやすかったかと学生の授業への積極性には相関があった。

模擬授業については、模擬授業の指導案作成、模擬授業の実施、他の模擬授業の見学の全ての質問項目において、大多数の学生が【はい】と回答しており、模擬授業実施への満足度が高かった。

模擬授業について自由記述で尋ねたところ、「良い経験だった。」という記述や「難しさが分かった。」という記述が多数見られた。

指導案を作成し、模擬授業を行うのは、この初等家庭科教育法が初めてという学生がほとんどである。したがって、指導案の作成や模擬授業の実施、相互評価を通して、この授業への満足度が高くなるものとする。これは、昨年度も同じ結果であった。

表 2 授業について

質問項目	今年度		昨年度	
	はい	いいえ	はい	いいえ
授業の進行速度は適切でしたか。	53 人	2 人	66 人	5 人
授業はわかりやすかったですか。	41 人	11 人	54 人	17 人
模擬授業の指導案作成はためになりましたか。	53 人	2 人	69 人	2 人
模擬授業をやってよかったですか。	48 人	1 人	70 人	1 人
他の人の模擬授業はためになりましたか。	54 人	1 人	70 人	1 人

## 3. 授業時間外学習の促進

昨年度は、学習指導要領に関する試験問題をグループごとに作成させ、その問題を次の授業時間の始めに解答させる確認テストを実施した。しかし、予習・復習を行っていた学生は、半数しかおらず、試験の点数からみても教育効果が得られなかった。したがって、今年度は、講義中に学習指導要領と家庭科教育の内容について詳しく触れることにした。その結果、学習指導要領の内容を問う期末テストにおいて、ほとんどが 8 割以上の学生が 8 割以上の点数を取っていた。

アンケート結果からは、授業外学習を行っていたのは、半数以下であったことが分かった。この要因として、個人に対しての課題を明確に設けなかったためだと考えられる。しかし、今年度は、グループでの授業外学習として、指導案作成と模擬授業準備の充実を促した。その結果、模擬授業へは十分な準備をもって取り組んだ学生が、昨年度より大きく増加した。このことから、グループでの授業外学習は促進されたものと考えられる。

授業外学習は、個人で行う以外にグループで行うことも考えられる。特に、教科教育での模擬授業などは、互いに練り上げることで個人の能力も高められる。したがって、今後もグループ活動を通しての授業外学習の促進について、効果的な方法を模索していきたい。その際には、学生にグループ活動による授業外学習の意義について、授業のガイダンスで十分な説明が必要である。